
未来を動かす

射月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

未来を動かす

【Nコード】

N54960

【作者名】

射月

【あらすじ】

些細な日常のひとコマは確かに未来に繋がっていました。

帰ってきたら？

ねえ、帰ってきたら、どうするの・・・？

些細な日常の一コマのはずだった。ただ、何の気なしに呟いた言葉を、あの少年に聞かれてしまい、此処に至る。

「全く、・・・はいはい、名探偵さんは忙しいんですか、分かりました」

呆れた声音の返答に、電話口で反論が起こる。それすらも軽く流して、蘭は適当に話を終わらせると、携帯を切った。そうして、探偵事務所の窓から眺めていた景色に、再度、目を向ける。携帯は父の仕事机の上に転がして。

父は仕事の依頼。此処で預かっているあの少年は今、知り合いの博士の家で友達とゲームをしている筈である。

そう、こんな雨の日に、子供たちの大好きなサッカーは出来ないから。

ぼつり、ぼつり。閉められたガラスに大粒の雨が降り注ぐ。変わり易い秋の日。待ち望んだ秋晴れの日はまだ来ない。

初めてだったかもしれない。自分から電話を切ってしまったのは。いつもいつも、彼からの電話やメールを、それがたとえどんなに些細なものだったとしても、待っていた。だって、当の本人には会えないから。

事実、彼は事件で忙しいというのだから、仕方がない。そうして自分は待つばかり。

ねえ、私はいつまで待つのか？

いっその窓を開け放して、降りしきる霰に当たってしまったかっただ。無性に濡れてしまいたくなかった。でもそう出来ないのは、父やあの子がきつと怒るだろうから。特に、あの子は。

小学一年生だというのにどこか大人びていて、賢く聡い不思議な子。そしていつもいつも、気遣ってくれる。けれど小学生をつかまえて、気遣い、だなんて。

くすり、と思わず笑みがこぼれた。

そうして、ようやく気が晴れていく気がした。

こここのところ雨の日続きだったものだから、きつと気が滅入っていたのだろう。だって、でなければ、嬉しくない筈がないのだから会えない日が続いても、こうして暇を見つけては電話やメールを寄こしてくれる、あの探偵さん。

「帰ってきたら、どうしてやろうかしら」

「どうするの？」

「・・・・・・・・え・・・・・・・・？」

返答のない筈の呟きに、返される言葉があった。

声の主を探して視線を彷徨わせていると、自分を見上げている子供の姿が目映った。面白いくらいにあの探偵に似た子供が。

「コナンくん・・・・・・・・？」

博士の家に遊びに行っていた筈では、と疑問が浮かぶ。そうして一体いつからそこに居たのか。ただの呟きをまさかコナンに聞かれるとは思わなくて、蘭は頬を赤らめた。

「どつするの、帰ってきたら?」

コナンは蘭に言及する。

どつする、と言われても。あれはただ何となく呟いただけであつて、特に意味は含まれていないのだが。

「こ、コナンくん・・・?」

「今言つたのつて、新一兄ちゃんのことでしょ?」

何で分かるの、コナンくん。蘭は半笑いを浮かべてみた。

「ねえ、帰ってきたら、どつするの・・・?」

執拗なコナンの問いかけに、蘭は少し諦めたようにして、その内容を少し真面目に考えてみることにした。そうして蘭はコナンと視線を合わせた。

「そうね、取り合えず一発殴る」

そう言いながら、固く握りしめた拳をコナンの前に突き出す。

コナンは半目を剥いて僅かに身を引いた。

「つていうのは嘘で、」

言葉を付け加えると、コナンは半笑いを浮かべていた。

それから少し考えた後、妙案、とでも言うように、蘭はしごく楽しそうな顔を浮かべてコナンに言った。

「トロピカルマリランド」

「へ?」

「新一が帰ってきたら、連れて行ってもらいませよ。 勿論ゼーンぶ、あいつの奢りで」

一瞬呆けていたコナンだったが、その内に蘭につられるように笑った。

「うんっ」

コナンはポケットの中で、今しがた貰ったばかりのたった一錠のカプセルの入ったピルケースを、固く握りしめていた。

(後書き)

射月です。

気分転換にと思って出だしだけ書いたら、結構長くなりました。自分でもびつくりです。

短編はこれで二個目ですね。

哀ちゃんのお話も書きたいんですけど、新蘭が好物なもので、でもこれ新蘭って言わないんじゃないかな。。。。

射月

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5496o/>

未来を動かす

2010年10月28日06時52分発行